

「見えない死角はどこにも潜む 意識集中 運転集中！」平成28年度最優秀交通安全標語

6月に引き続き7月も交通事故の発生はゼロでした。梅雨も明けて猛暑日が続いていますが、もう少し、猛暑日が続くことが予想されますし、これから夏休みを利用して自動車にて旅行を計画している人も多いと思います。高温で注意散漫になることなく自動車運転時は緊張感を維持し、安全運転を実行して下さい。

さて、湿度の高い時期に発生する「ゲリラ豪雨」に加えて、「台風シーズン」到来です。そこで今月の安全運転アドバイスは「荒天(こうてん)時の事故防止編(雪を除く)」について取り上げてみました。

一読していただき荒天時の安全運転に役立ててください。

I. 安全運転アドバイス 「荒天時の事故防止編」

・雨の日は路面が滑りやすく、視界も悪くなるなど車の運転には悪条件が重なります。
荒天時の危険を認識し、安全運転につなげましょう

1. 雨のとき 事故率は晴天時の約5倍！

(1) 降り始めには特に注意！
「停まりにくい」



・雨のときは路面が滑りやすくなるものですが、実は降り始めが特に危険。乾燥した道路に雨が降ると、泥やほこりが雨と混ざり合い、まるで油を引いたような状態になり、非常に滑りやすくなります。道路が滑りやすいと、乾燥した時よりも車の停止距離が長くなるので、スピードの出しすぎは厳禁。車間距離を十分にとって、落ち着いた運転をすることが大切です。

<運転ポイント>

スピードを抑え、車間距離を十分に確保する。
(追越しなどのスピードを出す行為は避ける！)



(2) 雨粒の目隠し
「視界が悪い」

・雨が激しく降れば降るほど、フロントガラスやサイドミラーにたくさんの雨粒が叩きつけられ、周囲の様子が把握しにくくなります。こんな時は、安全確認をしているつもりでも注意が不足しがち。ワイパーの速度をこまめに調整して視界の確保に努めるなど、いつも以上に注意が必要です。特に注意したいのはバック時。慎重に後方を確認し、いつでも停止できる速度で操作しましょう。

<運転ポイント>

バック時は、慎重に後方を確認し、いつでも停止できる速度で操作する。

(3) 飛び出し注意 「危険に遭遇」

・外出時の急な雨。もしも歩行中に傘を持っていなかったら…。ついつい先を急いでしまいがちです。降り始めはこうした理由で先を急ぐ人がいますので、思わぬところから歩行者や自転車の急な飛び出しがあるかもしれません。
こんな時は、ライトをつけて車の存在を通行人に知らせる等の工夫をしましょう。



<運転ポイント>

ライトをつけて車の存在を通行人に知らせる。

2. 強風の時

(1) 横風に要注意 「ハンドルがとられる」

・強風時には、前からの風よりも横からの風が危険です。横風を受けた衝撃で慌ててハンドルを切ったために事故につながる恐れがあります。
高速道路や谷にかかった橋上を走行中、トンネル通過直後等では、突風による衝撃を受けやすいので、ハンドルをしっかり握って冷静に対処しましょう。



(2) 大型車を追い越さない 「ハンドルがとられる」

・強い風が吹いているときは、横風に耐えるためハンドルを強く握る必要があります。しかし、大型車を追い越す時は要注意! 大型車の陰に入ると、急に風がなくなるために自分の車が大型車の方に引き寄せられるような状態に。
追い越した直後も、再度強い横風を受けてハンドルをとられます。
難しいハンドル操作を避けるためにも、強風時は大型車の追越しを避けることが大切です。

<運転ポイント>

ハンドルをしっかり握る。
横風が強くなりやすい場所・場面では、衝撃に備えるとともに、慌ててハンドルを切らないようにする。

II. 今月のスローガン

「過労運転の防止」

安全運転は

疲れと眠気を

とってから